別紙様式２

岐希特第３０４号
令和６年２月６日

岐阜県教育委員会　様

岐阜希望が丘特別支援学校長

学校運営協議会　会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第８条第１項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

１　会 議 名　　岐阜希望が丘特別支援学校　学校運営協議会（第３回）

２　開催日時　　令和６年２月５日（月）　９：３０～１１：２０

３　開催場所　　岐阜希望が丘特別支援学校　会議室

４　参 加 者

会　　長	出口　和宏	岐阜大学教職大学院　特任教授
副 会 長	可児　隆	早田自治会連合会　会長
委　　員	大野　昌伸	早田公民館　館長　欠席
	青山　幸二	岐阜県福祉友愛アリーナ　館長
	安藤　順子	ＰＴＡ会長
	大城戸　克之	岐阜希望が丘こども医療福祉センター　副所長
	尾藤　俊郎	社会福祉法人清流園　次長
	中村　真由美	岐阜県重症心身障がい児（者）を守る会　会長
	今村　正子	社会福祉法人ポップコーン福祉会　施設長
	古田　悦子	児童デイサービスリハビリランド　統括管理者　欠席
学 校 側	平野　俊之	校長
	垣添　奈巳	教頭
	老田　晃聖	事務長
	出野　由美子	小学部主事
	肥田　幸宗	中学部主事
	久富　喜江	高等部主事
	長瀬　やよい	教務主任

５　会議の概要（協議事項）

（１）議長の選出について

会長　出口　和宏　氏　を議長とすることについて、全委員より承認が得られた。

（２）令和５年度の反省と次年度の課題について
・各部及び各分掌の成果と課題について説明した。

意見１：新型コロナウイルス感染症が５類に移行されたこともあるので、それを踏まえて、学校行事を進めてほしい。

意見２：子どもが小学部のときに、あぐら座位、膝立ち等の身体の内容を課題として取り組んできたのが、担任が変わったことで、急に摂食の内容に変更されていた。課題の継続について引継ぎをしてほしい。

⇒担任に得意な専門分野があることは確かであるが、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」に基づいて、何を中心に取り組むのか保護者と相談しながら進める必要がある。

意見３：高等部卒業後の進路については、キャリア・パスポート等のツールを使って進めることはよい。卒業後、就労したものの、３年後には人間関係で辞めるケースもある。先を見据えて進路先と連携してほしい。

⇒本校では、卒業後３年間は追支援を行っている。１年目は直接訪問、２・３年目は電話連絡等で状況を把握している。また、就労移行支援の場合は、２年後に一般就労となったときに継続して追支援を実施する。

意見４：中学部で、ＩＣＴの活用が保護者に認知されていないとの報告があったが、ＩＣＴに児童生徒が慣れるばかりではなく、かかわる人たちの愛情を感じて、育ってほしい。社会へ出るときには、ＩＣＴを活用できるよう教えてほしい。

意見５：各部の報告から教職員の大変さが分かった。授業はもちろん、保護者対応等やるべきことが多いうえ、専門性の向上のための研修もしている。分掌を減らすなど、業務の精選を検討するとよい。学校では、本当に働き方改革が進んでいるのか。

⇒分掌については、毎年、検討をしており、今の状況になっている。この場での意見も踏まえながら、また検討する。教職員によって業務量の差があることは事実である。時間外労働を減らすよう働き掛けている。

意見６：希望が丘こども医療福祉センターが隣接しているにもにもかかわらず、医療的ケアの指導医が折居医師なのはどうしてか。

⇒希望が丘こども医療福祉センターは、小児整形外科が専門の病院であり、職員の研修やリハビリ参観、入所児の病棟と連携をしている。医療的ケアについては、よりその専門性の高い折居医師に依頼をしている。

（３）令和６年度の学校運営及び行事等について
・年間行事の予定を説明し、出席及び参加の呼び掛けをした。

（４）意見交換
・（２）及び（３）の概要説明を踏まえて、意見交流を行った。

意見１：障がいのある娘がいる。在学中は、学校はアットホームな雰囲気で、娘を迎えに来たときに教職員とコミュニケーションが取れていた。今は、放課後等デイサービスを利用している保護者が多いので、交流が希薄になっている。直接、顔を合わせて話せる機会が多くあるとよい。

昨年度、岐阜県特別支援教育推進連盟の会議での発表の中で、階段からの避難時にマットの上に子どもを乗せて降ろすことが紹介された。このように家庭でも役立てられるような情報が得られるとよい。

地域の方と一緒に会議ができることは重要である。学校のことを知ってもらえる機会となってよい。

意見２：友愛アリーナができて５年目で、先日初めて救急車を呼ぶことになった。放課後等デイサービスを利用される方の情報が何もなく、過呼吸を起こした方への対応が遅くなった。他の施設を利用する際には、ある程度の情報共有が必要である。

意見３：本校のＰＴＡ会長となり、このような会議に参加して、学校のことをいろいろと知ることができた。教職員はよくやってくれている。評価は、すべてＡでよい。

意見４：毎朝、病棟から笑顔で登校する児童生徒の様子から、学校教育が児童生徒にとって適していることを実感している。

意見５：保護者へのアナウンスの仕方を工夫して学校での取組みを周知させることで、保護者の捉えも変わってくる。

意見６：この会議に参加して、勉強させてもらっている。重度心身障がいのある子をもつ親として、登校して教職員と話せたことで安心することができていた。教職員と保護者の関係性をよくすることが、子育てに反映される。
施設長として、職員研修の大切さを分かっていても実施することの難しさを感じている。学校は、多忙なうえに多くの研修を実施しており、見習いたい。

意見７：小学校ではプール活動が減ってきている。一方で、川で亡くなった５歳児のことがニュースで報道された。実体験が減り、おぼれたときどうすればよいのかという知識がない。学校は、生きていくうえで大切なことを教えてほしい。
能登半島地震で、ボランティアに参加した。災害に合う確率は宝くじで当たるよりも高い。健常者でさえ生きるのが精いっぱいで、車いすを利用するような障がい者の姿はなかった。恐らく、別の施設に避難していると思われる。地震が起きたときに、自分の身は自分で守ること、地域で何ができるのかを考えていきたい。

６　会議のまとめ

・この地域は学園都市である。地域と学校が横につながって、防災訓練等、一緒に取り組めるとよい。
⇒実際に地震が起こったらどうなるのか、連携会議等で話題にして、学校に児童生徒がいる場合でも、教職員が動けるようにしていきたい。